



第2旅客ターミナルビル完成予想図

ベトナム・ノイバイ国際空港 第2旅客ターミナル 新築工事



大成建設株式会社 ベトナム・ノイバイ国際空港第2旅客ターミナル新築工事作業所 作業所長

牧内敏彦

Toshihiko Makiuchi

プロジェクトの紹介

ベトナム社会主義共和国は、インドシナ半島の東部に位置する面積約三三万平方キロ、人口約八、八〇〇万人の社会主義共和国で、国土は南北に長く、南には広大なデルタ地帯が広がっています。ベトナム北部に位置する首都ハノイの人口は六五〇万人で、ベトナム最大の都市ホーチミン市に次ぐ第二の都市です。この首都の空の玄関口であるノイバイ国際空港には、現在年間六〇〇万人の乗降客数に対応できるターミナルビルがありますが、ベトナムの著しい経済成長を背景に航空旅客輸送量の急増が予想されています。そのため二〇二〇年までに年間約一、二〇〇万人の乗降客数に対応するための空港施設整備の一環として、新ターミナルビルが、日本の円借款（本邦技術活用型）によって建設されることとなりました。

弊社は、当プロジェクトを二〇一一年十一月に受注、二〇一二年二月末の着工以来、二〇一四年末の竣工を目指して現在鋭意施工中です。二〇〇七年に完成したホーチミンのタンソニャット国際空港のターミナルビル建設に携わった弊社は、引き続き当プロジェクトに携わることで、ベトナムの二大国際空港の施設整備に関与することになります。弊社は、日本国

工事概要

本工事には、地上四階、地下一階、延床面積約一四万平方メートルのターミナルビルの建設だけでなく、手荷物搬送システム、可動式搭乗橋、フライング情報表示システム、空港運用管理システム、共用チェックインシステム、空港収益管理システム、保安機器等の空港特殊システムの構築まで含まれています。空港ターミナルビルの建設においては、これらの空港特殊システムの設置と建設工事の工程調整が鍵となります。また、このプロジェクトでは、ベトナム初となる



プロジェクト全体鳥瞰図

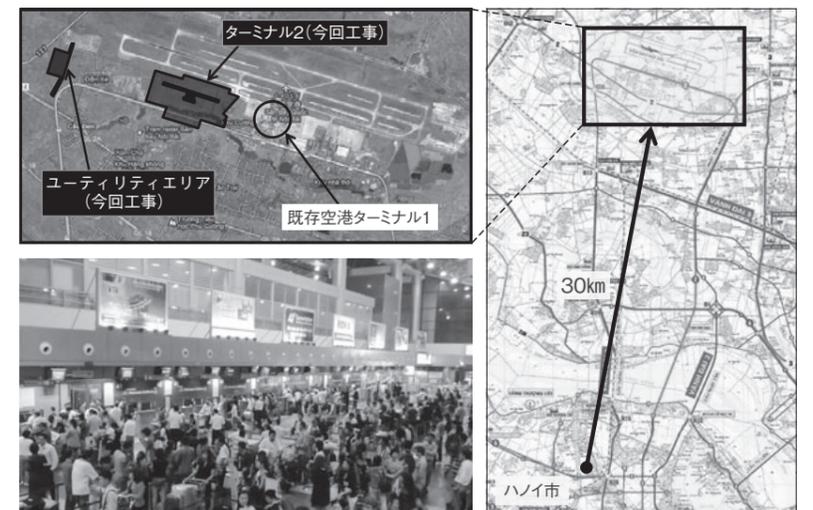


このプロジェクトを成功に導くためには、現地パートナーとの連携も重要な要素であると考えています。そのことから、弊社は、ベトナムの建設省傘下の大手建設会社ビナコネックス社と共同企業体を構成して当プロジェクトに取り組んでいます。同社とは一九九三年に共同で現地法人を設立して以来約二〇年に亘り、ベトナムにおける連携を深化発展させてきており、当プロジェクトにおいても同社とのパートナーシップを最大限に活かしています。

ハノイのノイバイ国際空港が拡張を必要としているのと同様に、ホーチミンでも今後の航空旅客輸送量の増加に対応する必要性があると想定されています。現在、弊社は、官民連携（PPP）の仕組みを活用してホーチミン市近郊で新空港を整備するFS業務に携わっており、ノイバイ国際空港第2旅客ターミナルビル完成後もベトナムの空港建設に積極的に関わっていきたいと考えています。

トピックス

燃料供給システムがあり、前述の空港特殊機器と共にこれら全てが我々の請負範囲に含まれることから、プロジェクトを完成するためには弊社のノウハウを最大限に活かしていく必要があります。



ハノイ市ノイバイ位置図と混雑する既存第1ターミナルビル